

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名 杉村 鮎美

論 文 題 目 肺がん患者の呼吸困難に対する援助と  
緩和ケア実践の関連

### 論文審査担当者

主 査 名古屋大学教授 榊原 久孝

名古屋大学教授 池松 裕子

名古屋大学教授 安藤 詳子

## 論文審査の結果の要旨

肺がんは、がん死亡率が最も高い難治性のがんで、治療過程から死に至るまで強い苦痛症状を強いられる。近年、新たな診断方法や治療法が進歩する一方、呼吸困難をはじめ肺がん患者の症状に対する有効な改善策がとられていない。肺がん患者の呼吸困難は息苦しさを訴える患者の主観的症狀であるが、身体的苦痛に加え、死への恐怖や自己概念の低下等の精神的・社会的苦痛を伴い、全人的苦痛となる。近年、肺がん患者に対する疾患特異的な通常ケアと緩和ケアを統合したケアによる症状緩和やQOL、生存期間延長の効果が明らかとなってきた。しかし、いずれの研究も専門的な緩和ケアチームによる介入を医師が報告した研究にとどまり、看護師の呼吸困難ケアと緩和ケアの融合の在り方について明らかにした研究はない。

本研究は、全国のがん診療連携拠点病院 409 施設より層別無作為抽出した 100 施設に依頼し、同意を得た 22 施設 535 名の呼吸器内科病棟に勤務する看護師に自記式質問紙を配布し、344 を回収(68.6%)、有効回答 334 を分析し、看護師の呼吸困難ケアと緩和ケアの関連について明らかにした。

本研究の新知見と意義は要約すると以下のとおりである。

1. 呼吸困難ケア項目を因子分析し、5 因子『呼吸法(7 項目)』『呼吸筋ケア(3 項目)』『体位調整(3 項目)』『精神的ケア(5 項目)』『社会環境的ケア(9 項目)』を見出した。
2. 呼吸困難ケア各 5 因子を因子得点の四分位 75% で 2 群に分けて従属変数とし、緩和ケア実践 6 下位尺度等を説明変数として、ロジスティック回帰分析(強制投入法)した結果、次の関連を認めた。(1) 腹式呼吸や排痰援助などの『呼吸法』と呼吸筋マッサージやストレッチの『呼吸筋ケア』は、「せん妄」の予防やアセスメントを行う緩和ケア、(2) 体位の工夫や寝具選択の『体位調整』は、患者の苦痛の訴えを傾聴して関わる「コミュニケーション」の緩和ケア、(3) タッチングや患者のそばにいる『精神的ケア』は、患者家族の希望や辛さを理解し寄り添う「患者家族中心のケア」と「コミュニケーション」の緩和ケア、(4) 家族への呼吸困難発生時の対応や発生原因の指導などに関する『社会環境的ケア』は、呼吸困難を客観的に評価し増強因子をアセスメントする「呼吸困難」に対する緩和ケアが関連していた。
3. 本研究によって得られた知見から、肺がん患者に対する呼吸困難ケアには、疾患特異的な知識や技術に加えて、緩和ケアにおけるせん妄をはじめとする症状マネジメント、コミュニケーション、患者・家族中心のケアの実践力を養う重要性が示唆された。今後の呼吸困難ケアの教育に大きく寄与するものである。

以上の理由より、本研究は博士(看護学)の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。